



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



コアラとユーカリの葉

コアラがユーカリの葉しか食べないのは、生き残るための進化だ。コアラは地上の生存競争に負けたため、ユーカリの木の上に場所を移した。ユーカリの葉には、季節によって猛毒の青酸が発生する。コアラは盲腸が長く、盲腸内の酵素で毒素を消化分解しているという。ただ、ユーカリの葉はエネルギー源に乏しい。このため、無駄に身体を動かさずにエネルギー消費を節約している。

ちなみに、コアラの名前は、アボリジニの言葉で「水を飲まない」という意味、水をほとんど飲まないために付けられたという。

ゼロ戦(零式艦上戦闘機)

ゼロ戦(愛称)は大東亜戦争における日本海軍の主力艦上戦闘機。当時の日本の軍用機は、採用年次の皇紀下2桁を名称に冠する規定になっていた。ゼロ戦の「零式」の名称は、運用開始した1940年(昭和15年)が皇紀2600年にあたり、その下2桁が「00」による命名である。

ゼロ戦は大東亜戦争初期、2200kmに達する長大な航続距離・20mm機関砲2門の重武装・優れた格闘性能によって、米英の戦闘機に対し圧倒的優位を収め、大東亜戦線の占領地域拡大に貢献し、米英パイロットからは「ゼロファイター」の名で恐れられた。しかし戦争中期以降には、米陸海軍の対ゼロ戦戦法の確立、米陸海軍の新鋭機の大量投入などによって、ゼロ戦は劣勢に追い



長期投資仲間通信「インベストライフ」

込まれてしまった。軽量であることが、(当初は)速度や航続距離等で優位を発揮したものの、防御力が弱い欠点を露呈してしまったのである。

(参考文献)「零式戦闘機」(吉村昭著、新潮文庫)

大川常吉の顕彰碑

このところの韓国大法院の理不尽な判決の報道に接するたびに想起するのが「大川常吉の顕彰碑」のことである。

大正12年の関東大震災直後、各地で朝鮮人が井戸に毒を入れたという噂が広まった。中でも横浜市鶴見では騒ぎが大きくなり、警戒を強めた民衆が朝鮮人と思われる人たちを警察に連行してきた。通信・交通が遮断した鶴見署では混乱を極めたが、分署長の大川常吉は毒が投げ込まれたとされる井戸水を飲むなどして民衆の説得にあたった。

その後も民衆は「朝鮮人を殺せ」などと騒いだが、最後は大川が命がけでおよそ朝鮮人300余名の命を守った。そして、時代が下り(大川は昭和15年63歳で没)、昭和28年大川家の菩提寺である鶴見区の東禅寺に「大川常吉の顕彰碑」が在日朝鮮統一民主戦線(朝鮮総連の前身)の手によって建立されたのである。

その後、大川常吉のことは忘れ去られていたが、この10数年学校教育現場やメディア(テレビ)で取り上げられるようになった。しかし、残念ながら大川の献身的な行為が韓国内で話題になることはなく、また、韓国の駐日大使が大川の顕彰碑を参拝することもない。



瞬間接着剤開発のきっかけ

瞬間接着剤といえば、昭和38年に東亜合成が開発した「アロンアルファ」が有名で木材や金属を瞬時に接着させる工業用の接着剤として開発された。

しかし、もともと瞬間接着剤は戦時における兵士の傷の治療(緊急の止血)目的に1955年(昭和30年)イーストマンコダックが開発したものである(ベトナム戦争でよく使われたという)。日本でも昭和40年に医療用の「アロンアルファ A 三共」が発売されている。

もちろん、同じ瞬間接着剤といっても工業用と医療用では成分の純度等が異なるので代替はできない。



むすんでひらいて(作曲者は?)

♪むすんでひらいて・・・手をうってむすんで・・・♪、童謡「むすんでひらいて」の作曲者は「社会契約論」「人間不平等起源論」などの著作で有名な18世紀のフランスの思想家・ジャン＝ジャック・ルソーだ。(ただし、作詞者は不明)

1947年小学1年向けに刊行された最初の音楽の教科書「一ねんせいのおんがく」に、新しい歌詞で登場したのが「むすんでひらいて」だった。以来今日まで「むすんでひらいて」は歌い続けられ、童謡、唱歌として定着している。ただ、最近では小学校よりも保育園、幼稚園でのお遊戯歌としての印象が強くなっている。

雷門(浅草寺)

浅草といったら浅草寺、浅草寺といえば 雷門、その雷門の赤い大きな提灯は浅草のシンボルだ。その雷門、正しくは「風雷神門」という。浅草寺の総門として天慶5年(942)に建てられ、数度の火災による焼失、再建を繰り返したが、慶応元年(1865)の火災以来、雷門は存在していなかった。そして、昭和35年(1960)、95年ぶりに雷門は再建された。鉄筋コンクリート製の現在の雷門を再建したのは松下幸之助氏だ。あの赤い提灯の下には「松下電器産業」「松下幸之助」と金文字で刻まれたプレートが貼られている。社名はパナソニックに変わったとはいえ、このプレートを書き換える予定はないとのことだ。

